

第三者割当により発行される

第2回無担保転換社債型新株予約権付社債（リファイナンス）

および第23回新株予約権の募集に関するお知らせ

補足説明資料

アクセルマーク株式会社（東証マザーズ:3624）

2021年3月26日

目次

- 1 資金調達の背景及び目的**
- 2 資金調達の概要
- 3 再成長に向けた戦略
- 4 補足情報

1 1-1. 資金調達背景

□ 2020年9月期～

不振のゲーム事業の事業譲渡等を含む事業構造の転換を実施

□ 2021年9月期 第1四半期

黒字化に向けた施策
①事業構造の転換、②BCゲームの協業、③全社費用の削減を完遂し、黒字構造に転換成功、再成長へ

現在

財務的には長年の不採算の影響で債務超過の状況

既発行済みの第1回無担保転換社債型新株予約権付社債および第22回新株予約権転換・行使価額は、473円となっており、当社の株価は転換・行使価額を下回る株価で推移（直近6カ月平均：341円）
転換・行使価額は固定型のため、短期的に転換・行使価額を上回る蓋然性が低く資本政策の再構築が必要

**債務超過の解消と再成長戦略のための資金が必要
守りの経営から攻めの経営への転換ポイントへ**

1 1-1. 資本調達のための主な目的

□ 債務超過の解消

2020年12月末時点で、債務超過であるものの、

- ・ 今期は営業利益の黒字化を計画
- ・ 今回の本新株予約権付社債、一定数を2021年5月24日までに株式に転換しなければならない旨を投資契約で定めている
⇒ 早期に債務超過の解消が図られる見込み

□ 再成長に向けた戦略的投資

1. 主力事業であるインターネット広告事業の体制強化
2. NFT関連事業(=ブロックチェーン関連)の権利獲得、プロジェクト出資
3. ヘルスケア事業への進出、提携、出資、権利獲得等
4. IoT事業の拡大のための投資

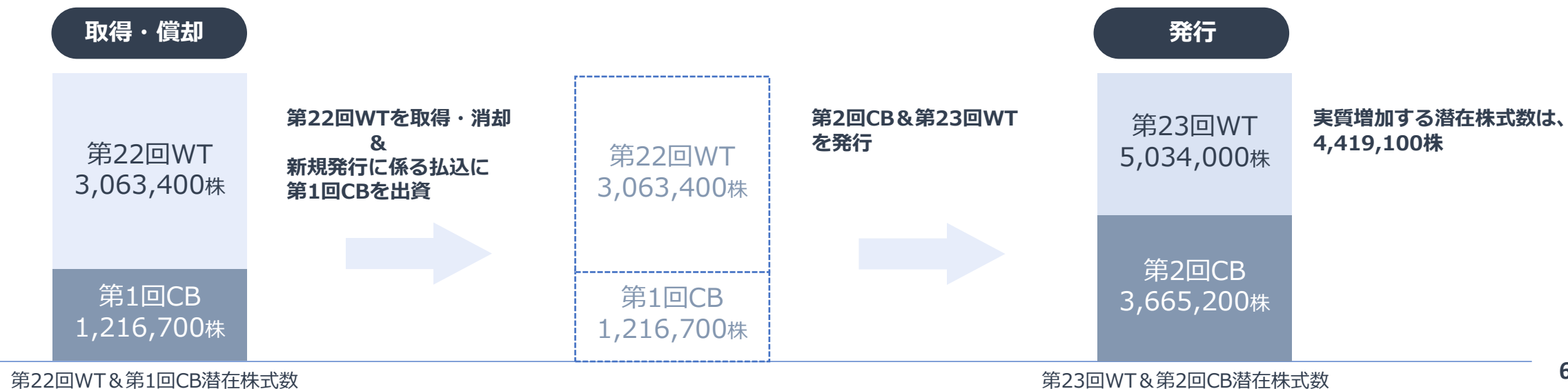
目次

- 1 資金調達の背景及び目的
- 2 資金調達の概要**
- 3 再成長に向けた戦略
- 4 補足情報

2 2-1.資金調達の概要

資金政策の再構築として、以下を実施

- ・ 第22回新株予約権(第22回WT)を取得・消却
 - 現状必要調達資金以上の希薄化懸念を払拭し、より株式需給への影響を軽減可能な手法へ切り替える目的で実施
- ・ 第2回無担保転換社債型新株予約権付社債(第2回CB)及び第23回新株予約権(第23回WT)を発行
 - 当初必要な資金を一定程度確実に調達を確保しつつ、将来的な資金需要を見据えた設計
 - 当初調達した資金で事業進捗を図りつつ、即時の希薄化を抑制
 - 第1回転換社債型新株予約権付社債の現物出資によるリファイナンスの効果
 - 一定金額（2.6億円）は2021年5月末までに株式に転換されるため、資本増強により債務超過解消の見込



2 2-2.資金調達後の見込み

□ 債務超過の解消が図られる

今回の本新株予約権付社債では一定数を2021年5月24日までの期限で株式に転換する義務を投資契約で定めており、確実な財務強化が見込める。

⇒ **投資実行後早期に債務超過の解消が図られる見通し**

□ 再成長に向けてのアライアンス強化

今回の転換社債の引受先として新たに「**THEケンコウFUTURE投資事業有限責任組合**」(TKF)を迎えることにより、ヘルスケア領域でのウィズ・パートナーズ及びその投資先企業の知見、事業推進のノウハウの助力を受けることが可能に。

中でも**アクセリード株式会社**とは密に提携を推進していく予定

2 2-3.成長資金の用途について

第2回 CB

合計
543
百万円

- 広告事業拡大における運転資金・システム投資など
143百万円 支出予定時期：2021年5月～2023年9月
- ヘルスケア分野の新規事業
400百万円 支出予定時期：2021年5月～2023年9月

第23回 WT

合計
1,494
百万円

- 広告・IoT領域・ブロックチェーン関連のM&A及び資本・業務提携に係る費用
994百万円 支出予定時期：2021年10月～2025年12月
- ヘルスケア分野の新規事業
500百万円 支出予定時期：2021年10月～2025年12月

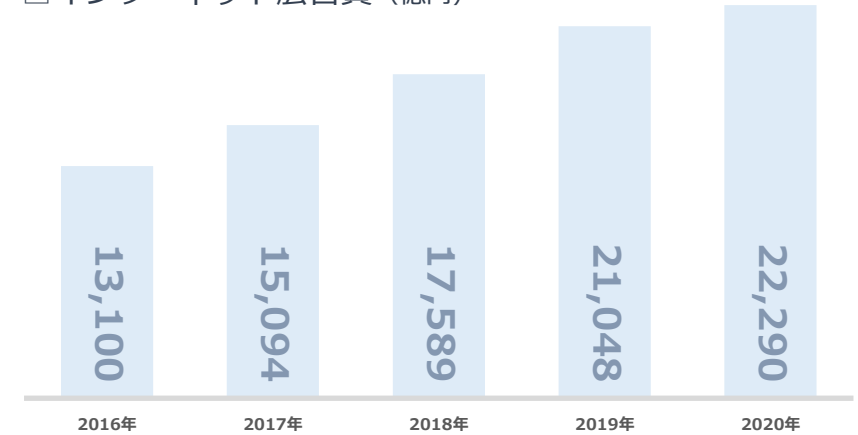
目次

- 1 資金調達の背景及び目的
- 2 資金調達の概要
- 3 再成長に向けた戦略**
- 4 補足情報

■市場状況

インターネット広告市場はコロナ禍の影響を受けつつも、外出・移動の自粛により、**巣ごもり需要が活発化**。社会におけるデジタルトランスフォーメーションが一気に加速したこともあり、2020年は前年比105.9%となる**2兆2,290億円**と順調に**拡大**

□インターネット広告費（億円）



※電通「日本の広告費」より当社グラフ作成

当社 取組

ネット広告単体でのサービス提供のみならず、引き続き市場のニーズにあった事業展開を可能とするため、体制強化およびシステム開発等に投資予定。

また、2006年より十数年に及ぶシステム開発の実績とノウハウを、今後、広告事業参入を検討している複数の企業との協業に活かし、**M&A・出資も含めたアライアンス展開**を検討中。

3 3-2 成長戦略 ブロックチェーン分野

2021年に入り、世界的に**NFT (Non-Fungible Token)**※の活用が進み、注目度も向上。当社は**NFT**領域での事業展開の先駆者として、様々なIPホルダーとのアライアンス、**NFT**流通のためのプラットフォームの創出を計画中。



※NFT：固有の希少性や独自性を有するトークンのこと

3 3-3 成長戦略 ヘルスケア分野（協業予定先:アクセリード社）



アクセリードは、ウィズ・パートナーズが業務執行組合員を務める投資ファンドが100%保有する持株会社であり、武田薬品工業からスピンアウトしたAxcelead Drug Discovery Partners株式会社を傘下に持つ日本初の創薬プラットフォーム企業。



People

- ◎ 業界最高水準の人材
- ◎ 規制当局を含む幅広いネットワーク
- ◎ 豊富な知識と技術、経験・ノウハウ

創薬研究者
200名以上

data

- ◎ 武田薬品工業の膨大な創薬データの活用
- ◎ 業界最大級の化合物ライブラリと付随データ
- ◎ タケダレガシープロジェクトへのアクセス

創薬データ
過去30年分

infrastructure

- ◎ 最先端のケイパビリティ
- ◎ 業界をリードする研究基盤インフラ

化合物ライブラリ
150万以上

3 3-4 成長戦略 ヘルスケア分野（協業予定先:アクセリード社）

アクセリードは、医薬品創出にかかわる企業、ベンチャー、アカデミアや公的研究機関など多種多様なプレーヤーに対し、それぞれのニーズにあわせたワンストップサービスを提供している。

名称等	アクセリード株式会社（ https://axcelead.com ） 代表取締役社長：藤澤朋行 株主：創薬維新投資事業組合 100%（業務執行組合員 ウィズ・パートナーズ）
子会社	Axcelead Drug Discovery Partners株式会社 代表取締役社長：池浦 義典 株主：アクセリード株式会社 100%
所在地	神奈川県藤沢市
事業内容	創薬研究に係る事業に関連するアドバイザリーおよび業務の受託等
従業員数	約240名
資本金	100百万円
設立年月日	2017年7月1日：事業開始 2020年4月1日：持株会社化により新設分割

▼ アクセリード紹介動画



https://www.youtube.com/watch?v=Bj83Q_i7Bfw

3 3-5 成長戦略 ヘルスケア分野



ウィズ・パートナーズが運営するファンドの投資先である**アクセリードとの協業**のもとに、主として海外ベンチャーの分子診断分野の新規技術を評価し、その中で日本市場での成長が見込まれる有望な技術・製品の国内事業化権を確保した上で適切な事業パートナーを開拓し、バリューチェーンを構築する事業開発型のビジネスモデルでの事業立上げを行う予定。

IoT×ヘルスケアへの取り組み



ヘルスケア × IoT市場の新規事業開発を目指す

POC(Point-of-Care)の分子診断機器自体をIoT化。診断結果をスマホアプリに表示するサービスを検討。
当社がこれまで培った、IoT分野の技術およびスマホアプリ開発の技術を活かし、サービス展開を予定。

全社

収益基盤が整い、黒字化がみえてきている
資本増強により債務超過を解消し、信用力を高める
財務の健全性のバランスをとりつつ事業の拡大、収益改善を目指す

既存事業

- **広告事業** さらなる事業拡大
- **BC関連** ブロックチェーン/NFTを活用したプロジェクトへの出資等、他社とのアライアンス展開
- **IoT事業** ノウハウを活かし、ヘルスケア 分野へ参入

新規事業

- **ヘルスケア事業**
 1. アクセリードとの協業をもとにヘルスケア分野での事業を立上げ
 2. ヘルスケア × IoT市場の新規事業開発を目指す

目次

- 1 資金調達の背景及び目的
- 2 資金調達の概要
- 3 再成長に向けた戦略
- 4 補足情報**

4 4-1 2021年9月期 業績予想

2021年9月期の通期業績予想に変更はありません

単位：百万円

	2020年9月期 通期 実績	2021年9月期 通期 予想	YonY 差異
売上高	2,784	2,525	▲259
営業利益	▲653	10	+663

本第三者割当によって、事業拡大および収益の向上、ならびに財務体質の更なる強化につながるものと考えておりますが、今回の調達資金を予定用途に従って活用した結果として業績に対する影響が生じた場合には直ちに開示いたします。

4 4-2 損益計算書四半期推移

単位：百万円

	前期※			当期	QonQ
	2Q	3Q	4Q	1Q	差異
売上高	698	706	643	632	▲11
売上原価	760	723	613	553	▲60
売上総利益	▲62	▲16	29	79	+50
販売管理費	132	134	86	103	+17
（うち広告宣伝費）	(6)	(0)	(0)	(0)	▲0
営業利益	▲195	▲151	▲57	▲24	+33
営業外収益	12	21	9	11	+2
営業外費用	4	2	3	0	▲3
経常利益	▲187	▲132	▲50	▲13	+37
特別利益	-	-	22	-	▲22
特別損失	-	12	14	-	▲14
税金等調整前当期純利益	▲187	▲144	▲42	▲13	+29
法人税等	0	0	0	0	▲0
当期純利益	▲188	▲145	▲43	▲13	+30

※2021年9月期第1半期決算より非連結決算に移行したため、前期実績は連結実績を記載しております

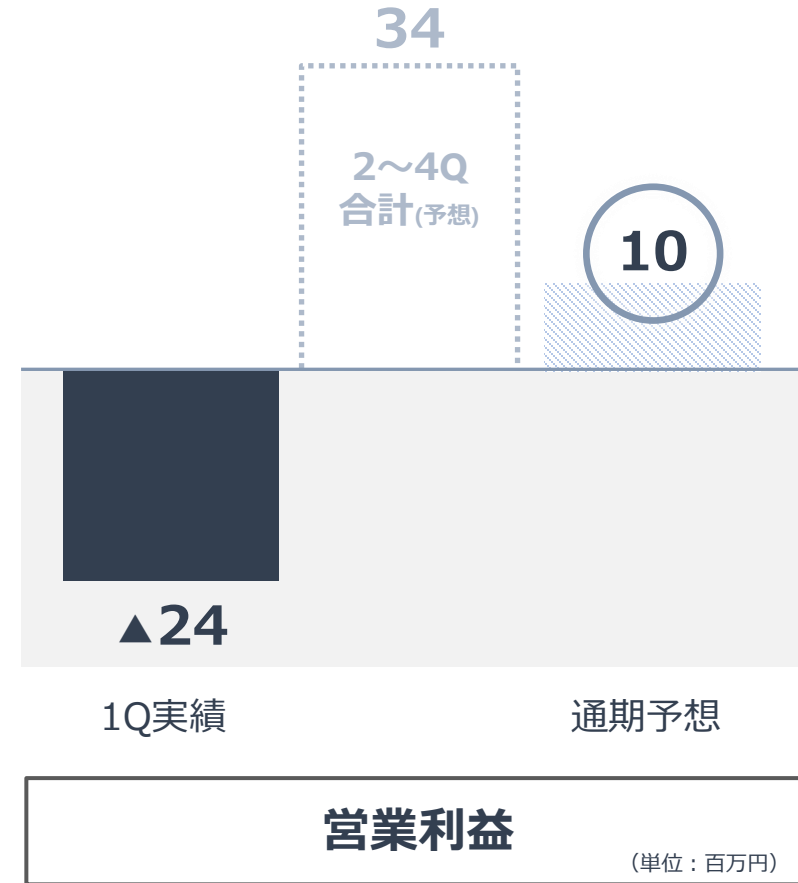
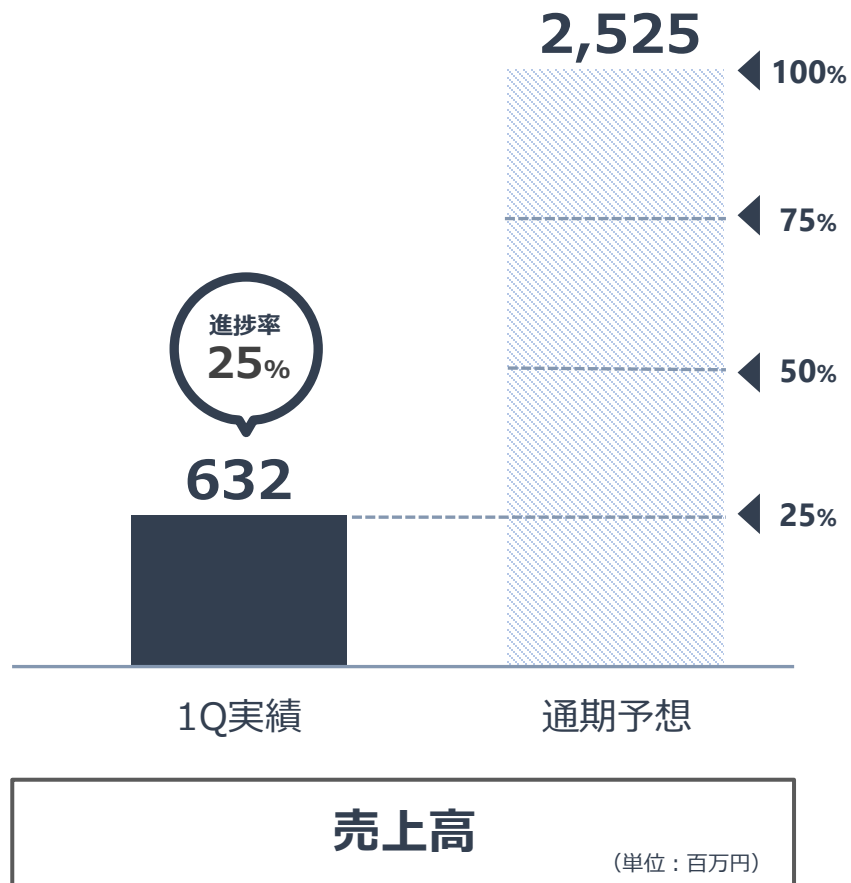
4 4-3 貸借対照表概要

単位：百万円

	2020年 9月期 4Q末	2021年 9月期 1Q末		2020年 9月期 4Q末	2021年 9月期 1Q末
流動資産	680	616	流動負債	412	361
現金及び預金	400	322	買掛金	175	208
売掛金	227	247	借入金	150	75
その他	51	46	その他	87	78
固定資産	134	132	固定負債	575	575
有形固定資産	20	19	転換社債型新株予約権付社債	575	575
無形固定資産	3	2	負債合計	987	937
投資その他の資産	110	109	資本金等	3,368	3,368
資産合計	815	749	利益剰余金	▲3,538	▲3,552
			新株予約権	4	4
			その他	▲8	▲9
			純資産等合計	▲172	▲187
			負債・純資産等合計	815	749

4 4-4 2021年9月期 業績予想の進捗状況

1Q業績は予想通りに推移、これまでの施策のコスト削減効果が最大限寄与されることで、2Q以降の黒字転換により、通期での黒字化を見込む





当資料はアクセルマーク株式会社が作成したものであり内容に関する一切の権利は当社に帰属しています。複写及び無断転載はご遠慮下さい。

当資料は当社の現在発行している、また将来発行する株式や債券等の保有を推奨することを目的に作成したものではありません。

また、当資料は当社が信頼できると判断した情報を参考に作成していますが、当社がその正確性を保証するものではなく、事業計画数値に関しても今後変更される可能性があることをご了解下さい。

最新情報やお問い合わせは下記のコーポレートページよりお願いいたします。

<https://www.axelmark.co.jp/ir/>